



独立行政法人 国立病院機構  
京都医療センター

National Hospital Organization Kyoto Medical Center  
文字サイズ



# 臨床研究センター予防医学研究室 学術研究発表会 2013

～糖尿病予防と糖尿病教育～

於：独立行政法人国立病院機構京都医療センター  
新中央診療棟 4F 多目的ホール

日時：2013年12月14日（土）13：00～17：50

13:00～13:50 一般発表1（発表7分，質疑応答3分）

座長：津崎こころ（京都医療センター予防医学研究室）

1. 骨折予測因子としての AGE

<sup>1</sup>京都医療センター予防医学研究室，<sup>2</sup>京都医療センター糖尿病センター，  
<sup>3</sup>淀川キリスト教病院，<sup>4</sup>京都医療センター臨床栄養科栄養管室  
<sup>1</sup>吉岡二三，<sup>1</sup>坂根直樹，<sup>2</sup>山田和範，<sup>2</sup>村田 敬，<sup>2</sup>岸純一郎，<sup>1</sup>小谷和彦，<sup>3</sup>渡辺直也  
<sup>1</sup>鋤納 心，<sup>1</sup>津崎こころ，<sup>4</sup>真鍋 悟，<sup>1</sup>岡田 浩，<sup>1</sup>佐野喜子

**【要旨】**骨折のリスク因子のペントシジンは，アミノ酸が糖化酸化縮合してできる糖化最終産物（AGEs）の一種である．一方 AGEs は糖尿病性合併症，動脈硬化などへの関与が報告されている．皮膚の AGEs を AGE reader で測定したので報告する．

2. 高脂血症専門外来における生活習慣の改善を踏まえた3か月間特別療養指導プログラム

「富士山VIPプログラム」の紹介と経過報告  
京都医療センター予防医学研究室  
鋤納 心，河口八重子，津崎こころ，坂根律子，小谷和彦，坂根直樹

**【要旨】**我々の高脂血症専門外来において，生活習慣病の中でも脂質改善に特化した食事療法を根幹とした療養プログラムを開発し高脂血症患者に実施した．今回，プログラムの紹介と経過報告からその有用性を検証する．

3. デイバートを活用したワークショップの効果

：保健指導における論理的思考と説得力を高めるために  
<sup>1</sup>ポロンカンパニー株式会社，<sup>2</sup>京都医療センター予防医学研究室  
<sup>3</sup>一般社団法人京都予防医学センター  
<sup>1,2</sup>中川康司，<sup>3</sup>阿部圭子，<sup>3</sup>鮎子田睦子，<sup>2</sup>坂根直樹

**【要旨】**保健指導において論理的思考と説得力を高めるため，さんまの会にてデイバート（テーマ：間食，ノンカロリー食品，健診等）を試みた．終了後のアンケートでは両面思考ができた（89.2%）等の結果であった．

4. 薬局における Narrative Based Medicine の実践

ヤマグチ薬局  
山口晴巨

**【要旨】**薬局での糖尿病患者へのアプローチとして Narrative Based Medicine (NBM) の考察と実践例を報告する．服薬アドヒアランスはもとより食事療法，運動療法の支援は対話を通じた患者本人への共感と生活背景の理解が重要である．

5. 保険薬局における糖尿病患者支援の可能性～

<sup>3</sup>☆ファーマシスト研修の参加者アンケート結果から  
<sup>1</sup>京都医療センター予防医学研究室，<sup>2</sup>ポロンカンパニー株式会社  
<sup>1</sup>岡田 浩，<sup>2</sup>中川康司，<sup>1</sup>坂根直樹

**【要旨】**薬局薬剤師を対象とし，糖尿病療養支援スキル・知識・マインドを学ぶ「3☆ファーマシスト」研修を実施した．研修開始前と終了後での仕事へのやりがいや知識・スキルの変化について検討した．

13:50～14:30 ミニレクチャー1（講演 15 分，質疑応答 5 分）

座長：岡田 浩（京都医療センター予防医学研究室）

6. 糖尿病患者のインスリン自己注射における適正使用のための注意事項

新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室

朝倉俊成

【要旨】インスリン自己注射は，劇薬であるインスリン製剤を，医薬品の取扱いに素人な患者が毎日使用する行為であり，安全かつ有効な手技を行うことが必須となる．そこで，患者にとって安全かつ有効な注射を行うために必要な注意事項についてポイントを整理する．

7. リスク情報の理解と認知特性の関係 ―生活習慣病指導への応用を目指して―

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構

和田有史，本田秀仁

【要旨】生活習慣病指導にはクライアントへの科学的な情報の伝達が伴うが，意図した内容と異なった理解がクライアントになされることがしばしばある．このような事態は食品のリスク情報の理解についても生じている．本発表では，食のリスク情報の理解を例として，人間の情報理解に係る認知特性を測定と，その認知特性がどのように情報理解に影響し，どのようにすれば理解が改善する可能性があるのかを研究事例に基づいて解説する．また，栄養指導改善への応用可能性についても議論する．

14:30～14:50 休憩・コーヒーブレイク（20分）

14:50～15:20 一般発表2（発表7分，質疑応答3分）

座長：小谷和彦（京都医療センター予防医学研究室）

8. 時間栄養学を活用した生活習慣病予防と治療のための食事指導法開発についての研究

<sup>1</sup>京都医療センター予防医学研究室，<sup>2</sup>自治医科大学臨床検査医学

<sup>1</sup>津崎こころ，<sup>1,2</sup>小谷和彦，<sup>1</sup>坂根直樹

【要旨】本邦において生活習慣病や肥満が増加していく背景には，食事量のみならず食べるタイミング（時間栄養学）の関与が指摘される．本研究では，いつ食事を摂ると良いのかを意識した新しい視点での食事指導を展開すべく，その取り組みを紹介する．

9. 暁現象を規定する因子とは？

自治医科大学臨床薬理学

安藤 仁，藤村昭夫

【要旨】1型糖尿病では早朝に血糖値が上昇しやすく，暁現象として知られている．今回，この暁現象がもたらされる機序をマウスで検討したので報告する．

10. 高齢糖尿病患者の運動プログラムについて

京都医療センター予防医学研究室，（有）ヒューマンモア

松井 浩

【要旨】30秒間の開眼片足立ちの保持が不可能な高齢者は，転倒し易いとの研究が有る．

京都医療センターに教育入院した高齢の糖尿病患者の殆どが該当する．そこで，転倒を考慮した運動プログラムについて検討した．

15:20～15:30 近況報告（10分発表）

座長：小谷和彦（京都医療センター予防医学研究室）

11. 岐阜県中津川市における糖尿病への取り組み

<sup>1</sup>名古屋大学大学院医学系研究科 地域総合ヘルスケアシステム開発寄附講座

<sup>2</sup>名古屋大学医学部附属病院 総合診療科

<sup>1</sup>岡崎研太郎, <sup>1</sup>高橋春光, <sup>1</sup>松葉泰昌, <sup>2</sup>佐藤寿一

【要旨】当講座のメインフィールドである岐阜県中津川市における糖尿病予防ならびに診療状況を報告するとともに、計画中の糖尿病対策プロジェクトの概要を報告する。

15:30～16:10 ミニレクチャー2（講演15分，質疑応答5分）

座長：岡田 浩（京都医療センター予防医学研究室）

12. 生活習慣病予防のための低エネルギーでも満腹度・満足度の高い

食事ガイドラインを用いた「野菜たっぷりスマートランチ」の開発

徳島大学大学院ヘルスバイサイエンス研究部臨床栄養学分野

奥村仙示, 関さやか, 多々納浩, 足立知咲, 周蓓, 小川美智恵, 武田英二

【要旨】肥満は生活習慣病の危険因子である。300人に6種類の昼食を摂取してもらうVAS試験を行い、エネルギー密度（ED）に注目した低エネルギーでも満腹度・満足度の高い食事ガイドラインを作成したので紹介する。

13. 糖尿病診療におけるHDL検査の展開

京都医療センター予防医学研究室, 自治医科大学臨床検査医学  
小谷和彦

【要旨】概してHDLは「善玉」と考えられてきた。しかし、最近の研究で「dysfunctional HDL」という概念が提唱されるようになった。特に糖尿病のような酸化ストレス関連疾患ではdysfunctional HDLがみられるという。こうしたHDLを測定する試みについて紹介する。

16:10～16:30 休憩・コーヒーブレイク（20分）

16:30～16:55 特別講演1（講演20分，質疑応答5分）

座長 坂根直樹（京都医療センター予防医学研究室）

14. 生活習慣病外来における医師アタマ（医療従事者特有の思考回路）からの脱却

おおい町国民健康保険名田庄診療所  
中村伸一

【要旨】多くの医療者は数値的目標を基準に近づけるように治療する。一見正しそうだが、これが医療者特有の思考回路（医師アタマ）であり、必ずしも患者のQOLに寄与してはいない。医師アタマからの脱却について考察する。

16:55～17:35 特別講演2（講演30分，質疑応答10分）

座長 坂根直樹（京都医療センター予防医学研究室）

15. 生活習慣病を防ぐ，食・栄養からのアプローチ

兵庫県立大学環境人間学部

永井成美

**【要旨】** 今，食べているものが明日からの貴方の体と健康を作ります。生活習慣病を予防し，未来にツケを回さない食べ方とはどのようなものか。国内外の最近の研究から興味深い知見を紹介する。

17:35～17:50 総括（発表 15 分）

座長 津崎こころ（京都医療センター予防医学研究室）

16. 糖尿病予防と糖尿病教育研究の現状と今後の課題

京都医療センター予防医学研究室  
坂根直樹

**【要旨】** 世界における糖尿病予防と糖尿病教育研究の最近の進歩について報告する。